



## 年頭所感

### 地球環境を考える

理事長 堀 功

みなさま明けましておめでとうございます。ご家族共々すばらしい2014年の新年を迎えられたことと思います。

昨年は年初からアベノミクスが経済に与えた影響が非常に大きく、過度な円高の是正により輸出環境も好転し、大幅に業績が好転された企業が多かったのではないのでしょうか。

日本工具工業会はどうかと振り返りますと、2013年3月に生産・出荷は底を打ち、4月以降は順調に回復してきています。平成25年度末の生産額も1,000億円を超える見通しで明るい話題と言えるでしょう。また、会員企業数も増員活動の結果2社の増と、工業会活動も活性化してきています。本年も、会員企業の皆様方の変わらぬご支援をお願いしたいと思います。

さて、年頭所感につきものなのは2013年のニュースの振り返りです。最も印象に残っているのは、天候不順による大雨洪水そして大型台風の大量発生です。

山口、島根、京都、山形、伊豆大島と被災された方々は大変お気の毒なことだとお見舞い申し上げます。また、フィリピンを襲った風速90m/秒の台風は想像を絶する被害をもたらしました。気象学者は、地球温暖化の進展が海洋温度を押し上げ、大量の水蒸気が上昇気流に乗って大型台風が多発し、また、局地的な大雨をもたらしていると報告しています。確かに、昨年夏の気温の高さは尋常では無く、昔学校では日本は温帯に属すると習いましたが、もはや亜熱帯ではないかと思う次第です。ヒートアイランド現象の進展で、東京の気温は既に100年前の沖縄の温度であるとの報告もあり、まさに亜熱帯になっています。

増え続ける自動車が排出するCO<sub>2</sub>の増加、増え続ける自動車の生産活動がもたらすエネルギーの消費増など、まさに、我々人類の生産活動の増大が異常気象の元凶を作り出しているのかもしれませんが。

日本工具工業会では、以前より環境委員会を設置し、毎年環境に対する取り組み、特に、排出CO<sub>2</sub>の削減、廃棄物の削減を強力に推し進めるとともに、会員相互の啓蒙活動を行っています。生産活動を支える重要な要素技術が工具技術であり、加工時間の短縮、工程の短縮、長寿命な工具などで加工エネルギーの減少に向け各企業が切磋琢磨しています。

日本は世界の中でも省エネが最も進んだ国家であり、加工技術の分野からも日本の技術で世界貢献ができると思っています。CO<sub>2</sub>排出を縮減し地球温暖化にストップを掛けるべく、本年も世の中の役に立ちたいと考えています。

また、CO<sub>2</sub>削減を事業のドメインとして考えることで、商品開発の考え方も変化し、新たなビジネスモデルを構築するチャンスが訪れるのではないかと思います。

工業会の取り組みは世界の中においては小さな一歩かもしれませんが、小さな一歩を世界規模で始めれば、それが大きな前進につながると信じています。

今年は午年です。午(馬)の視野は350°と前も後ろも見通せると言われています。我々人間は全方位で見通すことは困難ですが、少しでも馬の持つ広い視野を持ち、今年を頑張ることをお誓い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

(株)不二越 取締役工具事業部長



## 年頭所感

経済産業省製造産業局 産業機械課長 須藤 治

平成26年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

昨年末、大胆な金融緩和、機動的な財政出動、民間投資を喚起する成長戦略のアベノミクスの「三本の矢」により、我が国経済は着実に回復しつつあります。本年は、こうした動きを確実な成長軌道へつなげていくために「民間投資を喚起する成長戦略」を推し進め、長期にわたる低迷から復活に向けて歩み始めた我が国製造業の振興を強力に進めたいと思います。

昨年12月に成立した産業競争力強化法には、成長戦略の確実な実行を図るため、企業の技術力や創意工夫を生かした新たな規制改革の道筋を創設する「企業実証特例制度」や「グリーゾーン解消制度」、事業再編の促進等の諸制度が盛り込まれています。また、民間投資活性化等のための税制として「生産性向上設備投資促進税制」の創設、「中小企業投資促進税制」の拡充を措置いたしました。

本年4月には消費税率引き上げが予定されており、増税後の反動減も懸念されているところですが、こうした影響によって景気の腰折れやデフレ脱却に向けたチャンスを逃してはなりません。そのため、上記の各種支援策を講じて国内景気の下支えや、果敢にチャレンジする企業を応援してまいります。

また、アジアを中心とする新興国の成長を取り込み、日本の優れた技術を世界に提供していくことも重要な課題です。そのため、最先端のインフラシステム輸出や国内外の企業の連携等による海外展開を後押しすべく、関係部署とも連携しながら、トップセールスや海

外進出のための環境整備等を積極的に実施してまいります。

一方、中長期的な視点に立つと、我が国は高齢化や労働力人口の減少、エネルギー供給不安といった諸課題に囲まれており、課題先進国であるという状況に変わりはありません。こうした中、世界中の国々は、日本が如何に対処するのか注目をしています。そのため、今後ともこういった課題を解決していくと同時に、新しいビジネスをいかに創出していくのかということが益々求められています。

その一例として、昨年6月に閣議決定された日本再興戦略には、当課が厚生労働省とともに進めている「ロボット介護機器開発5カ年計画」が盛り込まれています。今や団塊の世代が65歳以上となり、今後10年間で日本の総人口に占める高齢者の割合は30%に達します。そのため、介護を巡る様々な課題に対して有効な手段を講じていくことが急務となっています。今後こうした課題解決の一端をロボット技術が担うとともに、関連するロボット産業がさらに発展するよう、各種施策を実施してまいります。

産業機械課は、これからも皆さんの生の声を聞き、それを産業政策に反映させていきたいと思っておりますので、良いアイデアやお困り事があつたら、気軽にお声を掛けてください。

最後になりましたが本年が皆様方にとって更なる飛躍の年となりますよう祈念いたしまして、新年の挨拶に代えさせていただきます。

## 平成25年度 技術委員会・環境委員会合同総会開催



技術・環境委員会合同総会の様子

昨年11月7日(木)、平成25年度技術委員会・環境委員会合同総会が、福島県会津若松市「御宿 東鳳」において開催された。

総会は関口技術副委員長(不二越)司会のもと、河野技術委員長(三菱マテリアル)の開会挨拶でスタート。同氏の技術委員会報告に続いて、関口ドリル専門委員長、鳥居フライス専門委員長(オーエスジー)、藤寄歯切工具専門委員長代理(三菱マテリアル)、三井ねじ切り工具専門委員長(彌満和製作所)、清水環境副委員長(オーエスジー)より、各委員会報告が行われた。

今総会は渡邊副理事長(彌満和製作所)にお越しいただき、特別講話をいただいた。自らの体験談や書籍の紹介等を織り交ぜながら、「情報化時代と言われる中、ただデータを集めるだけではなく、分析する事が必要。分析によって足りないものが見えてくる。」「ものづくりのベースは人づくりである。若い世代にも技術を伝承する機会を与えたい。」「物事の発想は、視点を変えると変わってくる。」といったメッセージを、出席した委員に向けて投げかけられた。

毎年恒例となっているメンバー講演では、まず、田中ドリル専門委員(宇都宮製作所)より「バックカントリー」を紹介。整備されていない自然の山の斜面をスキーやスノーボードで滑って楽しむというもので、自然豊かな豪雪地・新潟ならではのレクリエーションの話題は、この日、全国各地から集まった委員にとって、大変新鮮な内容であった。

続いて、西川歯切工具専門委員長(三菱マテリアル)の「私のポタリング日記」は、愛用の自転車で巡る旅行記を綴ったもの。明石海峡大橋やしまなみ海道など、風光明媚な地元の景色や名所・名産品などを、写真やルートを交えてユニークに紹介。尚、都合により今総会に急遽欠席となられた同氏のピンチヒッターとして、藤寄委員が代理発表を務めた。

前年に続き宿泊での開催となった今総会は、自動車・建設機械・産業機械用各種鋳造、鍛造、アルミダイカスト部品の製造等を手掛けるテクノメタル株式会社様のご厚意により、同社二本松工場の充実した設備を見学させていただき機会にも恵まれ、非常に充実したものとなった。

両日とも生憎の雨模様ではあったが、翌8日(金)は、大河ドラマ「八重の桜」のロケ地として賑わう会津若松市内の名所旧跡などを巡ったのち、散会となった。



渡邊副理事長の特別講話



技術委員会報告  
(河野技術委員長)



環境委員会報告  
(清水環境副委員長)



記念撮影



## 平成25年度 秋季合同部会・第7回環境賞表彰式

平成25年11月25日(月)東武ホテルレバント東京「龍田」の間にて平成25年度秋季合同部会を開催した。堀理事長(不二越)の挨拶に続き、専務理事より「平成25年度の上期生産実績と下期修正見通し」報告があった。上期実績494億7,000万円と500億に僅かに届かず、前年同期比93%。下期の修正見通しは542億8,000万円、前年同期比114.3%となり2桁の上昇となったが、これは昨年同期より数値が悪化していたことに起因する。合計で1,037億5,000万円。対前年比103.1%となった。

引き続きドリル、フライス、歯切工具、ねじ切り工具、バイトの各部会報告、総務企画委員会、技術委員会および環境委員会報告、事務局より新入賛助会員として(株)松岡カッター製作所(会員代表者：代表取締役 松岡克彦氏)、(株)アマダ小野工場(会員代表者：上席執行役員 酒井秀彦氏)2社の入会があったことと第27回JIMTOF工具工業会会員出展申込み状況、平成26年総会開催案の報告があった。

休憩を挟み、松岡環境委員長(不二越)から第7回環境賞の受賞会社の発表の後、環境賞表彰式が行われ、環境大賞1社、環境特別賞(地球温暖化防止3社、廃棄物対策1社)、環境貢献賞(エコプロダクト部門3社、エコファクトリー部門1社と合計9社)を表彰。代表して4社より事例発表が行われ、石川副理事長(オーエスジー)の総括で表彰式を終了した。

懇親会は、来賓の経済産業省製造産業局産業機械課長補佐根津正志様の挨拶、鶴巻理事(三菱マテリアル)の乾杯で開宴し、渡邊副理事長(彌満和製作所)の中締めで散会した。



秋季合同部会の様子

〈部会報告〉



関口ドリル 部会長 今泉フライス 部会長 東野歯切工具 部会長 古澤ねじ切り 工具部会長 植山バイト 部会長

### ◆堀理事長挨拶



堀理事長挨拶

上半期が終わり計画には若干未達でしたが、下半期はそれほど悪い要因が見当たらず、何とか1,000億円はいけるのではないかと。残り4ヶ月しかありませんが、会員企業皆様様のより一層の奮起をよろしくお祈りします。

今年1年はいろいろな行事があり、5月13日-16日に日本で初めて世界切削工具会議を開催しました。このときのコンセプトは「おもてなし」であり、東京オリンピックのプレゼンで「おもてなし」が話題になりましたが、いち早くこのおもてなしの精神で開催し、22カ国240名近くのご参加を頂き、日本のプレゼンスの向上に役立てたのではないのでしょうか。このような世界会議に積極的に参加していくことが、非常に大切だと感じました。

今年は豪雨、台風など沢山発生し、被災された方々にこの場を借りてお見舞い申し上げるとともに、この要因には地球温暖化の影響が非常に大きいと聞いています。当工業会では、環境委員会を設置し、小さい一歩ですが、地球温暖化にストップをかけるという取り組みを数年間行ってきました。増加し続けるCO<sub>2</sub>の排出は世界的な自動車の増加、生産活動に消費されるエネルギーの増加が一因と思います。切削時間の短縮、工程短縮など少しでも地球温暖化のストップをかけることが我々のなすべき事と考えています。加えて、環境を軸にして考えると新しいビジネスモデルの構築につながっていくのではないかと思います。

### ◆堀理事長総括

技術委員会のISO13399は我々には直接関連は薄いのですが、ISO活動の啓蒙活動は必要不可欠で、世界各国の動きは、技術委員会を中心にフォローしていただきたい。また、各専門委員会のメンバーが減少傾向にあり、活動に支障をきたしている面もあり、若い方の勉強も兼ねる形では是非、ご参加願います。環境委員会で、環境大賞など表彰規定の検討があがっており、環境賞は、会員会社のモチベーションアップが目的であることから、今後見直しも必要となると思いますが、一番点数が高いところが受賞するのが相応しい。環境を征する企業は、業績も上がっていくものです。

## 懇親会

### ◆経済産業省根津課長補佐挨拶

今国会で議論されている産業競争力強化法は、アベノミクスの第3の矢である成長戦略を実現するための施策です。順調にいけば年内に参議院を通過する予想。生産設備更新、事業再編を進めるための税制と新しいことにチャレンジするための規制緩和が盛り込まれています。第1の矢では金融緩和、第2の矢で財政政策。これにより株価の上昇や円安に転じ、今回の第3の矢を皆様に飛ばしていただきたい。是非、新しい枠組みを活用していただき、日本経済の再生を実現していただきたい。工具産業は重要な産業であって、皆様が元気なことが製造業の活性化に直接繋がっていく。そういう意味でこの第3の矢にとどまらず、様々な取り組みの検討をよろしく願います。

### ◆乾杯の音頭 鶴巻理事（三菱マテリアル）

今年より理事を拝命しています。本日のスカイツリーツアーのキャンセルは、見通しが甘かったのか、運が悪かったのか。明日から天候回復する可能性が高いことから、こんな日にあたることに少々不安を感じますが、これは今日だけで、部会の見通し、堀理事長の言葉からも年間生産額1000億を何とか実現したい。目標達成を誓って乾杯。



経済産業省 根津産業機械課長補佐挨拶



鶴巻理事の乾杯挨拶



渡邊副理事長の中締め



マンヨーツール(株)千崎社長の挨拶



(株)松岡カッター製作所松岡社長の挨拶



(株)アマダ小野工場酒井上席執行役員の挨拶



懇親会の様子



## 第7回 環境賞表彰式



環境大賞、環境特別賞、環境貢献賞が堀理事長より各受賞会社に授与された。受賞会社については、平成25年度環境調査(6～7Pに掲載)を参照願います。受賞会社のプレゼンテーションは下記の4社が行った。内容に関しては、後日ホームページに掲載予定。

### ◆石川副理事長総括

今年は、環境大賞はかなり僅差であったと聞いております。これは工具工業会の皆様の環境活動レベルが着実に向上しているということで、喜ばしく思っています。今後、評価方法を一部見直し、より多くの皆様に参加していただきたい。本日、昼食をとったホテルのレストランに食品名の偽装表記の詫び文が掲出されました。企業の社風にコンプライアンスを根付かせる法制遵守の活動を環境活動につなげていただくことを会員皆様をお願いします。



環境賞総括(石川副理事長)



堀理事長より環境大賞を受けるオーエスジー(株)今泉フライス部会長

### 受賞会社プレゼンテーション

- ◎環境大賞  
オーエスジー(株) 清水 文人
- ◎環境特別賞  
三菱マテリアル(株) 福永 浩
- ◎環境貢献賞  
エコプロダクト部門  
(株)不二越 五島 康  
エコファクトリー部門  
(株)田野井製作所 小暮 一彦



受賞会社全員による記念撮影

# 平成25年度 環境調査報告

環境委員会 委員長 松岡 信一

## 1. はじめに

2012年度（平成24年度）は、原子力発電の国内50基の全停止と安全評価などエネルギー問題への対応に追われた1年でした。政府エネルギー・環境政策についても明確な指針が見えないことから、第2次の環境行動自主計画の数値設定は延期しておりますが、会員各社それぞれの『環境改善の活動』は着実に進められてきています。

今年第7回目を迎えました環境賞表彰では提出頂きました環境調査票を厳正に評価し、各社の模範となるような環境活動を行った会社に対して、環境大賞および環境特別賞を、また応募の中から環境配慮技術について環境貢献賞を選出しました。

環境調査によるデータを日本工具工業会の環境指標としてまとめましたので以下に報告させていただきます。

## 2. 報告

### 2-1 環境調査結果

#### (1) 環境調査票回答状況

- 集計期間：2012年4月1日～  
2013年3月31日
- 有効回答：19 / 34社 (56%)

#### (2) 調査内容

環境マネジメント（環境教育・社会貢献活動含む）、温暖化対策、廃棄物対策（化学物質管理含む）に関する調査結果。

#### ■ 環境マネジメントに関する調査結果

昨年度と比べるとISO14001認証取得の会社が2社増え11社となりました。

また環境実績評価においてもエネルギーと廃棄物の両方を行う会員が増加しており、環境への取組み強化が進んでいます。

原子力発電停止に伴う節電活動の状況については昨年の調査に比べ暫定対応の会員が増加してきています。

#### ■ CO<sub>2</sub>排出量と生産高原単位の推移

2012年度のCO<sub>2</sub>の排出量は前年より526t (0.6%)の増加となりましたが、生産高原単位は前年より3.1%減少しており、会員各社の改善活動の成果の現れと思います。

今年度の環境特別賞として、2009年以降連続して原単位排出量を削減した会員3社を表彰致しました。

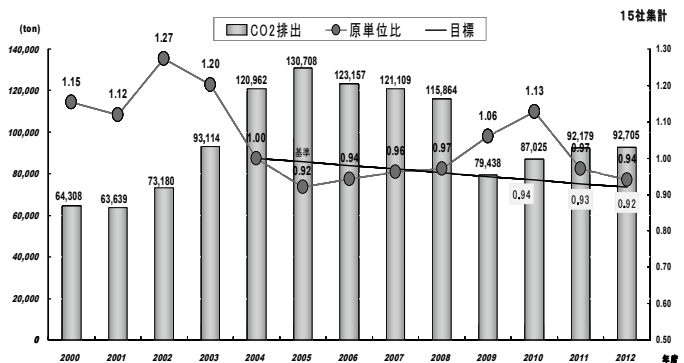
#### ■ 環境マネジメント

有効回答19社

調査項目	あり	検討	両方	片方	実施	公開	取得	発行	準備	なし
環境方針	11	2								6
環境推進組織	12									7
ISO14001の認証取得 ECO21準拠活動実施					6		11			2
環境(エネルギー・廃棄物)実績 グリーン購入・調達の仕組	7	4	10	2						8
社員への環境教育		8			11					0
主要下請け会社環境教育					8				11	0
環境事故への対応訓練					10					9
社会貢献活動					13					6
地域・自治体の環境活動					9					10
環境情報の公開						9				10
環境報告書の発行								5		14
事例発表の履歴	3									16

節電対策	恒久対策	暫定対策	不要
2011年夏季対策状況	0	15	3
2012年冬季対策状況	0	17	1
2013年夏季対策状況	1	16	1

\* 恒久対策:設備等含むハードによる対策、暫定対策:勤務体制などソフトによる対策



(1) 原単位は、エネルギー使用量 (GJ) / 生産高 (百万円) を算出し、2000年を 1.00 とした時の指標値で表しています。  
 (2) CO<sub>2</sub>への換算は、化石燃料については、「エネルギー源別標準発熱量」(資源エネルギー庁)を、電気については(社)日本経済団体連合会の資料「電気の使用にともなう二酸化炭素排出原単位について」を基準に算出しています。



## ■廃棄物に関する調査結果

廃棄物の総排出量は前年と比べ85トン(1.6%)の増加となりました。

埋立量についても前年比102トン増となり、再資源化率は前年の86.9%から85.2%へと1.7ポイント減となりました。

生産拡大の局面を考慮すれば廃棄物の総排出量は統制されていると思いますが再資源化率で少し後戻りと成りました。

会員各社の廃棄物の有価物化や再資源化は着実に進んでいます。更に更なる前進が必要となります。

環境委員会においても再資源化率の目標達成を目指し再資源化の情報、ヒントを発信してまいります。

今年度に再資源化率99%に到達した会員が1社増えています。その活動を称えると共に、模範としたく環境特別賞として表彰致しました。

### ※注記

毎年の環境調査で過去のデータ不備などを遡って見直ししており一部に昨年掲載データと異なる点があります。

## 2-2 「環境賞」の表彰について

第7回 環境大賞および環境特別賞、並びに環境貢献賞を選考して理事会に推薦し、決定されました。

### ■環境大賞

- ・オーエスジー株式会社

### ■環境特別賞

- <地球温暖化防止> ・株式会社 宇都宮製作所      ・株式会社 不二越      ・高周波精密株式会社
- <廃棄物対策> ・三菱マテリアル株式会社

### ■環境貢献賞

<エコファクトリー部門>

- ・株式会社 田野井製作所[スクリーコンプレッサーの変更による省エネ活動]

<エコプロダクツ部門>

- ・オーエスジー株式会社[フェニックス ヘッド交換式ドリル]
- ・株式会社 不二越[アクアドリルEXフラットシリーズ]
- ・三菱マテリアル株式会社[スマートミラクルエンドミル]

## 3. 今後の課題

第2次の「環境自主行動計画」の数値目標については政府目標の見直しを待っており作業が進んでいませんが早急に自主基準を設定し環境活動の向上に取り組んで参ります。

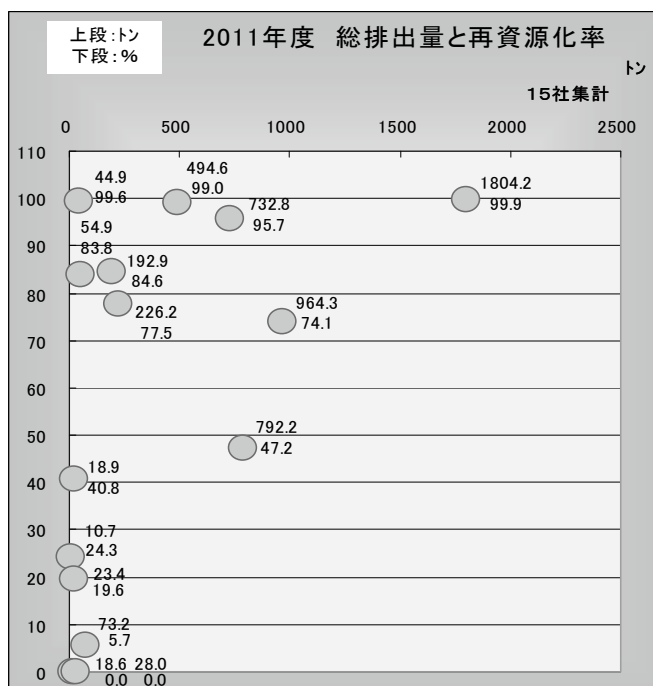
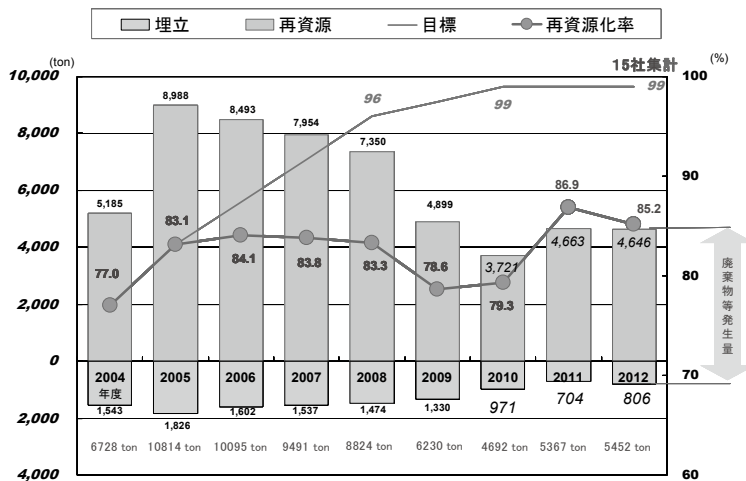
### 3-1 当面の目標値

- ・地球温暖化対策については継続的に取り組み、2011年を基準に毎年1%削減を当面目標とする。
- ・廃棄物対策として再資源化率50%以下の会員の底上げをはかる為、具体的な対策事例の紹介を積極的に展開。

### 3-2 環境調査の回答率向上(56%→75%)

- ・会員各企業への環境情報の発信と共に、より回答し易い調査票に見直しを進めて参ります。
- ・CO<sub>2</sub>削減(消費電力量)と廃棄物排出量の補捉率を高め、工業会の全体像を把握出来る様に努めます。

(株)不二越 工具事業部生産技術部長)



## 株式会社 栄工舎

〒946-0035 新潟県魚沼市十日町 494-8  
TEL : 025-792-1139 FAX : 025-792-6796  
URL : <http://www.eiko-sha.co.jp/>

### 会社紹介と工場 PR

1950年5月東京大田区蒲田キネマ通りで「安部川 栄」がリーマ専門メーカーとして創業しました。近年はリーマに加え、各種カッター、エンドミル、ドリルの4本柱が主流となっています。大田区に本社を置きながら5回に亘る工場の引越しを経て2007年6月に現在の新潟県魚沼市南部工業団地で操業を始めました。1981年1月には工場が漏電での火災や2004年10月には新潟県中越地震に遭う等様々な出来事がありました。現在の地は地盤が固く、地震に強いです。

鉄骨3階建て。敷地面積6,388m<sup>2</sup>、延べ床面積3,790m<sup>2</sup>。八海山の豊富な水量の地下水を利用し工場の屋根及び駐車場の雪対策をしています。

東京駅から新幹線の浦佐駅まで1時間30分。駅から車で5分。また関越自動車道の小出インターから10分のところで交通の便は良いです。

最近国内外からの工場見学者が多く、代理店、販売店、ユーザー、学校の生徒等に来て頂いています。工場内には野球チーム「EIKO TOOLS」があり、各種大会等に参戦しています。

また、魚沼市ものづくり振興協議会の会員でもあります。



### ご当地紹介

魚沼市は、新潟県の越後三山にいだかれ清らかな水と緑のまち。中越地方でも南東に位置し、2004年11月1日に北魚沼郡内のうち川口町以外の6町村が合併（新設合併）して誕生した市です。旧堀之内町地区は、かつて三国街道の宿場町（堀之内宿）として栄えました。

周囲は山に囲まれた盆地で、冬期は2mから3mの積雪がある日本有数の「特別豪雪地帯」です。東西約37km、南北約52kmと広大な面積を有する自然環境に恵まれた地域であり、総面積は新潟県の7.5%を占めていますが、市内の84%は森林です。

合併による新市発足を8日後に控えた10月23日に新潟県中越地震が発生し、震源から程近い当地域でも死者5名、全壊75世帯を数え、魚沼市の歴史は震災復興から幕を開けることとなりました。

主な特産物は魚沼産コシヒカリ、日本酒（緑川、八海山、玉川酒蔵）、蕎麦、山菜、ユリ等。

魚野川の鮎が有名でさらに鮭が遡上します。

名所は、目黒邸（国重要文化財）寛政九年（1797年）、5年の歳月をかけて建てられた割元庄屋のお屋敷。豪農住宅で、桁行十六間・梁間六間という豪壮さ。また野面石で塀を築き冠木門を設けるなど、中世武士の屋敷構えになっています。

日本芸術院賞を受賞した歌人「宮柊二」（みや しゅうじ）の偉業をたたえ、遺品、遺墨300点を集めた記念館。宮柊二は魚沼市堀之内出身で、北原白秋の門下生として様々な分野で活躍してきました。記念館では、彼のたゆまぬ夢と、歌にささげた生涯や、白秋の資料なども展示。

「コスモス道路」と呼ばれる高原の1本道沿いに広がるコスモス畑。木々がうっすらと秋色に染まるころ、3.8ヘクタールある上原（うわっぱら）高原はピンクの絨毯にすっぽりと覆われ、コスモスの楽園となります。

その他、奥只見ダム（奥只見湖）、銀山平、西福寺（開山堂）、尾瀬（新潟県からの入口）等など。俳優の渡辺謙の出身地でもあります。



目黒邸（国重要文化財）



宮柊二記念館



上原コスモス園





## 会津随想

技術委員長 河野 公一

日本工具工業会技術・環境委員会合同総会が、11月7日・8日に会津で行われた。1日目は、御宿「東鳳」で、各委員会報告と渡邊副理事長の講話があり、データ分析の大切さを痛感した。

2日目は、1年間のJIS・TAS規格作りの労を癒せる懇親の時間である。総勢13名で会津武家屋敷、鶴ヶ城、末廣酒造嘉永蔵を見学に行った。武家屋敷や、八重の桜でも有名になった西郷頼母邸や歴史建造物があり、山本八重の写真も飾ってあったが、当然、綾瀬はるかとは似ても似つかない。また、頼母の家族21人の自刃の場も再現されており涙を誘われた。松平容保が家来を謁見している様子もあり、京都守護職を引き受けたり、徳川慶喜に大政奉還をさせたりしたことが、会津にとって多くの悲劇を生んだことが思い出された。会津武家屋敷から西方1.5kmのところへ鶴ヶ城が見えたが、1868年の戊辰戦争では、そこから官軍が大砲を撃ったとのこと。よく、あの小さな的に当たるものだったと思った。そして鶴ヶ城へ。バス駐車場から、土産物屋を抜けてお城へ行くようになっており商魂たくましいと感心した。2011年、天守閣屋根瓦を赤瓦に葺き替えた鶴ヶ城は美しく、特に四層の間は、戊辰戦争を錦絵で描いており、その絵のタッチに懐かしさがこみあげてきた。そして天守閣は、東西南北が見渡せる素晴らしい展望で、ちょうど色づいた紅葉に囲まれ会津の風景を楽しんだ。八重が薩摩を苦しめたミニエー銃も構えてみたが、銃身が細くてとても当たるようには思えなかった。そして造り酒屋の「末廣」へ。ここでは、清酒の造り方を学んだ。最近、職場環境のせいか日本酒を飲む機会が多くなった。米と麴を1～3



鶴ヶ城天守閣

月に仕込み3週間寝かせるとのこと。大吟醸は、通常3週間のところを5～6週間糖化、アルコール発酵させる。もろみを干して4～5日圧力をかけ清酒になる。このままでは、生酒だが、通常火入れを行う。末廣は、契約栽培を行っていて、大きな玄米から心白という米の中心部以外の脂肪・蛋白質の量が50%以下のものを大吟醸というとのこと。35%以下のものは玄宰(げんさい)というそう。一度は、飲んでみたいが。若い女性はその脂肪、たんぱく質を取るために米を踏む山おろしを廃止したものを山廃仕込みという。若い女性の足の裏が最も適するというのは不思議である。当然、試飲コーナーもあった。大広間には、野口英世、松平容保、徳川慶喜などの書もあり、居酒屋をやっている奥さんと来たのか、神戸製鋼入社同期の安倍首相の書もあった。現在は、第7代の新城猪之吉が継いでいるとのこと、歴史を感じさせられた。その後、呉越同バスの輪卓も話がはずみ、昼食をとるため喜多方市内へ。喜多方ラーメンに舌鼓を打ち、帰りは猪苗代湖を見て郡山駅に帰ってきた。事務局の西山さんの「二日間お疲れ様でした」のアナウンスに、一同拍手が沸いた。「ご慶事を聞きて、いくとせか、みねにかかれるむらくもの、はれて嬉しきひかりそ見る」八重が、83歳の時に、会津出身の秩父宮勢津子妃と雍仁(やすひと)親王の婚儀で詠んだ歌である。この時に、会津は大いににぎわったそう。バスから降りて解散するときに、来年は、課題の「若手技術者のための技術資料」を発行して、この八重のような気持ちで総会を迎えたいと感じた。

(三菱マテリアル(株)超硬製品事業部加工技術センター長補佐)



会津藩主・松平容保直筆の書



## 「我が社のマイスター」

推薦者：高周波精密（株）製造室長

みすの  
御簾納 英 範

我が社の誇る匠を紹介します。手加工技能は当社No.1。なのにまだ私より若い。一般的に「マイスター」は年配者が多いと思いますが、まだ40歳になったばかり。まだまだ匠の技が伸びることと思います。更に、この匠の技を長期に渡って後進に引き継ぐことができ、代え難い貴重な人材です。

### 【名前】

元澤 義治

### 【部署名】

製造室 LAP班

### 【仕事内容】

LAP班に所属。「LAP」とはラッピングの略称で主にハンドグラインダーの先に工具を取り付け、製品の表面を滑らかにかつ微細に研磨し、高精度な加工面と寸法を得ることができる。当社のほぼ全製品がこの工程を通過する。LAP班のリーダーとして高難度品の加工及び後輩への技術指導を実施している。

### 【職歴】

1993年4月入社。入社当時はものづくりの基礎となる平面研削盤、円筒研削盤作業を担当。

その後、我が社でもトップクラスの精度を誇る治具研削盤作業を習得し、入社から10年を経て、LAP班へ異動。

当時、LAP班の技術No.1の方の定年退職に合わせ、技能伝承を目的に異動した。能力的に適していたかどうかは不明で異動したが、OJT教育で能力開花し、現在ではLAP班の第一人者となった。

### 【こんなところが凄いんです！ 誰にも負けないんです！】

工作機械では加工できない細部の加工や、1マイクロメートル単位の寸法を手で加工できる。また、金属の表面を顔が写る位に光沢を出す鏡面加工を行います。この加工は、表面のムラや小さなキズも一切許されず、3次元形状を滑らかに繊細に加工していきます。まさに匠の技の持ち主です。本人曰く「手の力加減で何マイクロメートル削り取ったか分かる」とのこと。手が超精密機械で出来ているようです。でも私の方がもっと凄いと思うのは「目」です。1マイクロメートルの取り残し

や曲面の歪み、微細なキズを目で見分かります。「ここがおかしいよ」と言われてもさっぱり分かりません。特別な測定器具は使いません。市販されている普通の電気スタンドの向きを変えながら、目とハンドルーペだけで発見していきます。「光の当て方や見る角度で全てが見える」と言っています。実際に、形状測定機（コントレーサー）で計ると指摘した通りになっています。この時の誤差は0.4マイクロメートルでした。ここまで来ると、測定器が正しいのか？彼の目が正しいのか？判断つかないレベルです。

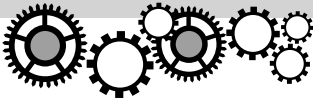
このように超精密機械の手と何でも発見できる目を持ち合わせていて、どんな物でもどんな形でも作り上げてしまう「高周波精密の魔術師」と言える存在です。しかし、これだけの超精密な加工をして、手も目も疲れていると思いきや、休日は色々な所に出かけ、会社の行事にも必ず参加します。物腰も柔らかく世話好きで、いい意味で職人気質ではないので、後輩への教育係としても適任であり、我が社の匠の技術を維持・向上し、次世代に継承していく貴重な人材です。

### 【後進へのメッセージ】

加工機の技術進歩により、高精度な機械加工が可能となってきたが、最後を決定づけるのは人です。「見て」「聞いて」「触る＝やってみる」を決して忘れないことです。目、腕、手など疲れるが、自分で加工し判断できるようになると「楽しく」なります。楽しいと向上心が生まれ、更に技能が上がる。「やらされ感」を持たず「やりがい」を持って、技能を磨いて欲しい。もう1つは、自分から積極的に新しい製品の加工にチャレンジし、1歩先に経験することです。1歩先の経験が、新しい加工方法や手順を見つける糧となり、それらを教えることで指導力が身に付き、信頼感を得ていきます。「ラッピングに満足なし。日々精進である。」を忘れずに、自分自身と共に同じ職場で働く仲間の技能向上に努めて下さい。







## 日本工具工業会稗史（第一回）

### 【まえがき】

稗史とは正史の対語で昔、中国で下級の役人に書かせた民間に伝承されている物語を指します。工業会の正史は30年史、40年史、50年史、60年史にそれぞれ詳細に記録されています。

しかし正史に記せない、或いは表面的に伝えられただけの歴史の側面について、Myツールの日下部編集委員長と田島編集主幹から現在の会員各位が知らない工業会活動の裏面史を書くことを勧められ、当時のメモと記憶を頼りにご披露すべく筆をとりました。記憶違いや偏った見方、あるいは年代の前後もあるかと思いますが悪しからずご容赦ください。文中機微にわたる内容の登場人物は実名を避けましたのでご了承ください。

私が工業会に入出入りするようになったのは昭和38年<1963>、今から50年前で我が国が高度経済成長時代に向かって歩み始めた時代でした。当時は工業会のメンバーも大先輩ばかりでしたが、もうほとんどの方が卒業されてしまい、いつの間にか私が最年長の部類になってしまいました。

### 【理事長の変遷】

初代の理事長は切削工具の名門と言われた園池製作所の小田碧社長が9年間務められた後、二代目理事長を選挙で決めることになり、対抗馬として不二越の井村荒喜社長が立候補しました。両陣営とも会員を料亭に招待して投票を依頼したという今では考えられないことでした。

選挙の結果、不二越の井村荒喜社長が第2代理事長に当選し8年間の任期を務めました。その後は選挙によらず禅譲の形で神戸製鋼の大島善吉工具事業部長が第3代理事長に就任しましたが、ドリル戦争（別掲）の責任をとり理事長職を任期半ばで退任し、本来なら後任に宮脇事業部長が理事長に就くべきところ神戸製鋼の上層部の意向で理事長就任を辞退したため、以後9ヶ月ほど理事長不在の状態が続きました。その後、理事会で協議の結果、不二越の大和田国男常務に白羽の矢を立て本人も受諾されたので、第4代理事長に就任しました。大和田理事長は平成5年（1993）に退任されるまで実に27年間にわたり理事長を務めました。その後は神戸製鋼の小柳工具事業部長が6年間理事長職に就いた後、現在は大手3社による2年毎の持ち回り制となっています。

### 【官民一体の時代】

わが国の経済復興期には通産省（当時）の指導や支援が企業の成長に大きく影響しました。官民一体となっ

た経済成長は諸外国から護送船団方式とか、株式会社日本通産省と揶揄されたほどでした。このように官民一体となって経済復興に努力した結果、わが国は戦後の廃墟から立ち上がり、経済大国として繁栄することができました。昭和30年（1955）には“重要輸入機械免税臨時措置法”（日本で生産できない高性能工作機械を輸入する時は輸入税15%を免除する）という時限立法が成立し、我々機械工具業界も設備の近代化が進みました。通産省によるバックアップ体制はその後も続き、昭和31年（1956）6月には機械工業（工作機械・金型・歯車・切削工具等19業種）を対象とした設備近代化のための低利公的融資や合理化カルテル等を骨子とした機械工業振興臨時措置法（機振法）が成立し、我々機械工具製造業の設備近代化が進みました。この法律は2次、3次と昭和45年（1970）まで継続され、メーカーの体質強化に繋がりました。その後も機械電子工業及び特定機械工業振興臨時措置法（機電法）、特定機械情報産業振興臨時措置法（機情法）と続き、業界の設備と体質強化を図ることが出来ました。

その他、通産省は産業機械課が中心となり、後述の通り不況カルテルや材質制限カルテルなどの調整・仲介や業界の揉め事にも積極的に介入し指導にあたりました。

地方で開催される総会や合同部会には通産省の担当課長クラスが一泊で参加することが通例でした。昨今は役人受難時代で官僚が目の仇にされていますが、いわゆるキャリア官僚は徹夜もしばしばという過酷な仕事をこなさなければ昇進競争に勝ち残れませんでした。昔、賢島で総会を開いた時、来賓として当時の産業機械課の棚橋課長（後の事務次官）も一泊で参加しましたが、翌日は朝食も摂らず近鉄で名古屋に向かいました。ちょうど私も海外出張のため朝早く出発して、車内で偶然隣り合わせになりました。名古屋までの間色々話をしましたが、大きなポストンバッグを持っているので聞いたところ、『何時本省から電話がかかり次の出張先を指示されるかも知れないので、常に2～3日分位の着換えや日用品を持ち歩いています。』とのことでした。また『家で家族と一緒に夕食を摂るのは年に3～4回くらいです。』と聞き、民間も到底及ばない活躍ぶりに驚きました。国会開会中は答弁書の作成で徹夜もしばしばとか。（退官後は国会議員に立候補するという噂がありました。現在はご子息が国会議員として活躍中です。）

当時の大和田理事長は棚橋課長に頼み込んで、『よしみ会』（工具工業会のゴルフ同好会）に通産大臣杯を寄贈してもらい、優勝者の持ち回り制となっていました。まさに役所と業界の蜜月時代でした。（つづく）

（Myツール編集委員 細島 圭三）



品 目	平成23年度 実績	平成24年度実績				平成25年度見通し					
		上期実績	下期実績	年度実績	前年度比	上期実績	前年同期比	下期見通し	前年同期比	年度見通し	前年度比
ドリル	18,782	8,760	7,160	15,920	84.8	8,683	99.1	9,081	126.8	17,764	111.6
ミーリングカッタ	1,702	860	845	1,705	100.2	800	93.0	832	98.5	1,632	95.7
ギヤーカッタ	9,848	4,826	4,337	9,163	93.0	4,250	88.1	4,483	103.4	8,733	95.3
ブローチ	10,656	5,393	4,690	10,083	94.6	4,714	87.4	4,956	105.7	9,670	95.9
タップ・ダイス	11,981	6,221	6,246	12,467	104.1	6,667	107.2	6,985	111.8	13,652	109.5
バイト	32,024	16,607	13,949	30,556	95.4	13,527	81.5	16,431	117.8	29,958	98.0
リーマ	1,919	970	953	1,923	100.2	902	93.0	960	100.7	1,862	96.8
合 計	86,912	43,637	38,180	81,817	94.1	39,543	90.6	43,728	114.5	83,271	101.8

(出典：経済産業省 機械統計)

ソリッド切削工具(ハイス+超硬) 平成23～25年度上期生産額実績及び25年度下期見通し (単位：百万円、%)

品 目	平成23年度 実績	平成24年度実績				平成25年度見通し					
		上期実績	下期実績	年度実績	前年度比	上期実績	前年同期比	下期見通し	前年同期比	年度見通し	前年度比
ドリル	25,876	11,967	10,285	22,252	86.0	11,619	97.1	12,300	119.6	23,919	107.5
ミーリングカッタ	21,908	10,770	10,586	21,356	97.5	10,952	101.7	11,555	109.2	22,507	105.4
ギヤーカッタ	10,112	5,146	4,442	9,588	94.8	4,442	86.3	4,670	105.1	9,112	95.0
ブローチ	10,668	5,521	5,637	11,158	104.6	5,983	108.4	6,280	111.4	12,263	109.9
タップ・ダイス	35,152	18,241	15,145	33,386	95.0	14,784	81.0	17,700	116.9	32,484	97.3
バイト	2,424	1,238	1,106	2,344	96.7	1,151	93.0	1,220	110.3	2,371	101.2
リーマ	288	127	116	243	84.4	368	289.8	385	331.9	753	309.9
その他工具	462	172	165	337	72.9	171	99.4	170	103.0	341	101.2
合 計	106,890	53,182	47,482	100,664	94.2	49,470	93.0	54,280	114.3	103,750	103.1

(出典：日本工具工業会 会員統計)

## 新賛助会員紹介

○下期に下記の2社が新賛助会員として入会されましたので紹介致します。

### 賛助会員

#### 1. (株)松岡カッター製作所(平成25年10月入会)

会員代表者：代表取締役 松岡 克彦

会員住所：〒420-0812

静岡県静岡市葵区古庄2-18-46

電話番号：TEL：054-261-1877

FAX：054-261-7810

創 業：1936年4月

事業内容：①木工用超硬切削工具(カッタ、ルータービット、エンドミル等)

②木工用PCDダイヤモンド切削工具

③樹脂および金属加工用超硬・PCDダイヤモンド工具

④その他特注機械部品、特殊治具

上記品目の製造および販売業務

(会員数は、12月31日現在、正会員35社、賛助会員17社 合計52社)

#### 2. (株)アマダ 小野工場(平成25年11月入会)

会員代表者：上席執行役員 酒井 秀彦

会員住所：本社

〒259-1196

神奈川県伊勢原市石田200番地

小野工場

〒675-1377

兵庫県小野市葉多町56番地

電話番号：小野工場 TEL：0794-62-5931

FAX：0794-62-4351

創 業：1946年9月

事業内容：金切帯鋸刃の開発・製造

## 編集後記

昨年2013年を振り返ると、最大のイベントのWCTC2013が会員皆様のご支援で成功裡に終わったことが一番印象に残っています。また、コバルトリスク対策では、環境委員の皆様には色々と活動頂き、工業会としての対応を検討戴きました。一方、会員の上期生産額に関しては前年同期比で減少しましたが、年後半からはアベノミクス効果も漸く数字として現れてきており、今年は多いに期待したいと思います。

今回のMyツールから日本工具工業会稗史と題して、彌満和製作所の細島顧問(Myツール編集委員)にお願ひし、連載していただく

ことになりました。若い会員の皆様には工業会の歴史を知る上で興味ある記事としますので、ご期待ください。

また、今年の通常総会は、地方開催の年であり、東北地方の復興への一助にとの思いで、仙台で開催予定です。是非多くの皆様のご参加をお待ちしています。

4月には消費税アップが控えており、経済的には少々心配もありますが、午年である今年は、馬のように疾走し悪いことは蹴散らせて頑張っていきましょう。年頭に当たり、会員皆様の益々のご隆盛をお祈りしています。